

# 日本画像学会新ビジョン —Vision55—

2013年6月12日

日本画像学会ビジョン委員会  
委員長:竹内達夫

1

## 日本画像学会Vision55 ー 諸言 ー

日本画像学会は1958年に電子写真学会として発足して以来、電子写真技術・ノンインパクトプリント技術を基に、印刷・写真を身近なものとして作成する要素技術発展に寄与してきました。

現在まで取り扱ってきた要素技術は有機・無機半導体技術、高分子・エラストマー等の材料技術、無機微粒子技術、静電気技術、電気工学、電子工学、量子光学、等多くの異分野の技術を統合的に含んでいます。

さらに学会として画像工学自体の発展に貢献すべく、グラフィックアーツ、インクジェット、磁気記録、サーマル記録、電子ペーパー、デジタルファブ리케이션について議論の場を与え基礎領域分野を応用展開する中で多くの課題を解決するという形で発展を遂げてきています。

しかし、学会で取り扱ってきた多くの技術の流れを俯瞰すると画像出力の為の技術は取り扱ってきているが、画像自体を取り扱うという面では弱さを持っていたともいえます。

他方、画像に関する社会的なニーズはますます重要性を持ってきており、動画を含む映像画像技術は情報の流通・医療・安心安全・エンターテイメント等、多くの分野で社会生活に不可欠なものとなっています。

このような社会状況の下、学会創立から55周年という節目の年を迎え、当学会の永続的な発展を行う為に「Vision55」を構築し、より広い画像技術分野を当学会で取り扱うだけでなく、当初から当学会が培ってきた異分野技術のとの連携、産業分野との密接な連携を強化し、魅力のある知的議論の場を提供していくこととしました。

この学会ビジョンは2010年学会理事研修会での提言を基に活動を開始し2年間の活動の結果よりまとめられております。今後、このビジョンを基に新規な技術分野への挑戦的な研究会の設立、基礎科学から産業応用への広い視野を持つシンポジウムの開催、世界をリードする国際会議の新設、画像社会への技術貢献など様々な角度から新規な活動を展開してまいります。

# 目次

- 1, 新ビジョン
- 2, ビジョンに基づく新たな活動
- 3, 今後の日程

## 委員会構成

委員長: 竹内達夫

委員: 半那会長, 北村元会長, 平倉元会長, 中山前会長  
面谷副会長, 阿部カンファレンス委員長, 内藤選奨委員長  
佐野理事, 神野理事, 池田元理事

## 技術RM作成

日本画像学会技術部会主査各位



学会スローガン

生活シーンにおける最適な画像空間の提供を目指す

## 日本画像学会ビジョン

画像につながる, または画像技術を基にした  
萌芽技術のインキュベーションの場を担い,  
画像環境の新たな提案を行う.

(知的空間の創造)

# 1.日本画像学会新ビジョン

## ビジョンを支えるミッション

- 1) 知的快感が得られるかつ、知の幅が広げられる学会へむけて議論する技術分野を増やす
  - ・新技術領域を設定し、必要に応じて連携他学会を増やし、フロンティアメンバーを増加させる  
(大学の参加を増やす)
  - ・技術の掘り下げの方法論の転換(技術部会間の連携強化)
  - ・ICJにて新規セッションを構築する、さらに新技術領域をもとに国際会議を開催する
  - ・学会誌の質向上
- 2) インキュベートの場の提供とそれを支える人材と組織の強化
  - 大学の新技术について企業向け、他の大学向けに情報発信する場を設ける
  - ・技術連携の場を積極的に提供する
  - ・講師の派遣(国内学校, 企業)
- 3) 画像生活環境の情報提供
  - ・技術マップを充実し、発信し認知度を向上させる
  - ・新情報の共有(情報入手)
  - ・外部発信用のセミナー開催(発信)
  - ・学会価値としての標準化等の活動

## 2.新ビジョンを支える行動計画

### 技術領域強化

新技術領域の設定

ビジョンに基づく国際会議開催

技術委員会拡充

### 組織力強化

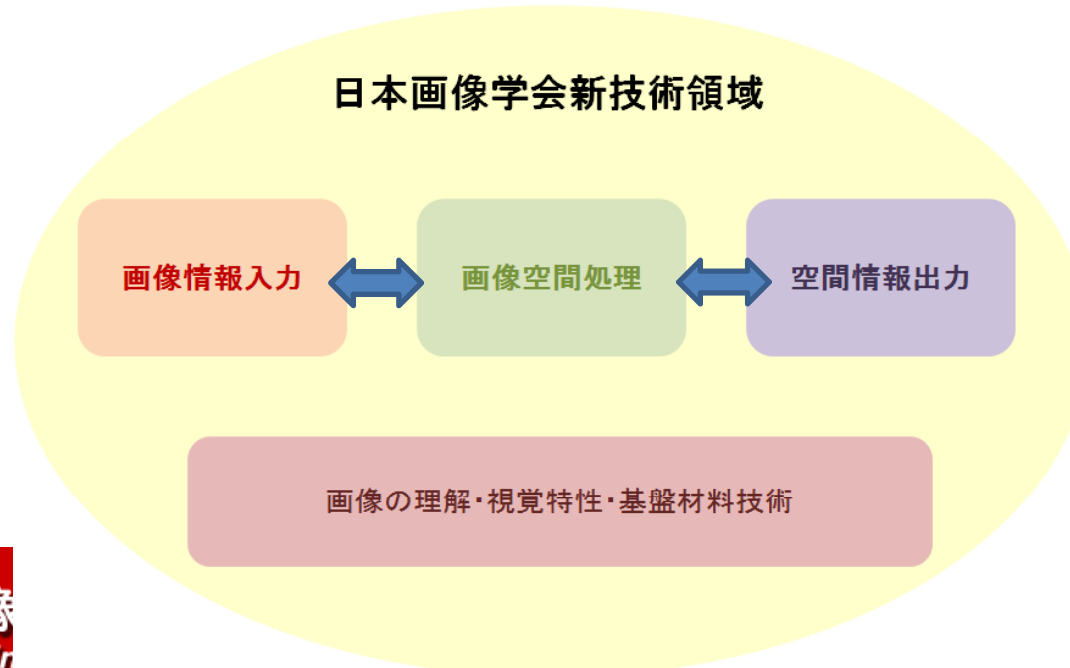
学会としてのインフラ充実  
(委員会組織の活性化)

標準化や政府への提言  
(IF取得と科研費, JST対応)

人材育成・教育  
(講習会等の教育を充実)

## 技術領域強化

1. 空間情報取得を含めた画像入力技術
  - \* 計測・不可視画像取得技術を含む
2. 画像情報の加工, アーカイブに関する技術
  - \* 従来の画像処理に加え画像復元, 4の視覚特性を考慮した新画像
3. 画像の表示・出力・伝送技術
  - \* 2Dの出力の高度化のみならず, 3D実体出力技術
4. 画像認識・評価とこれを支える視覚特性に関わる技術
  - \* 色と認識, 光源による画像認知, 視覚特性の研究
5. 基盤技術としての画像材料技術と基礎デバイス
  - \* センシングデバイス, 光源, 顕像化材料, 次世代表示材料

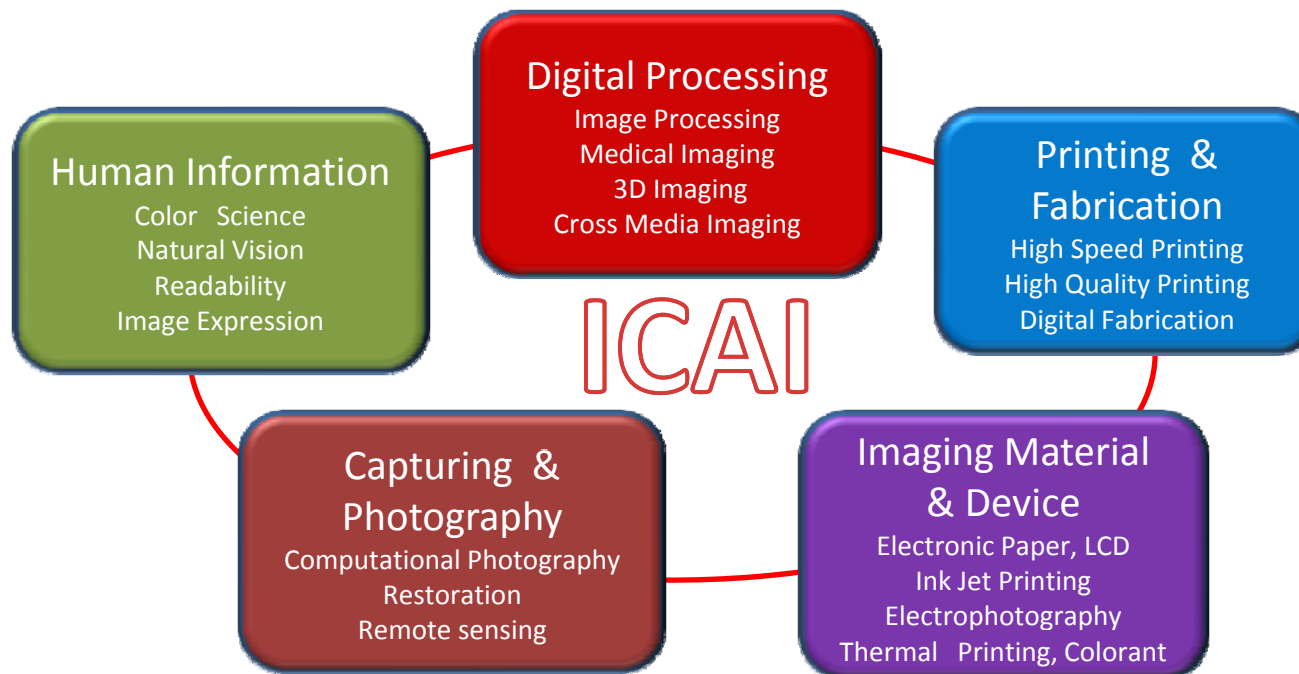


# 技術領域強化

ICAI: International Conference on Advanced Imaging

国際会議の開催と学会連携

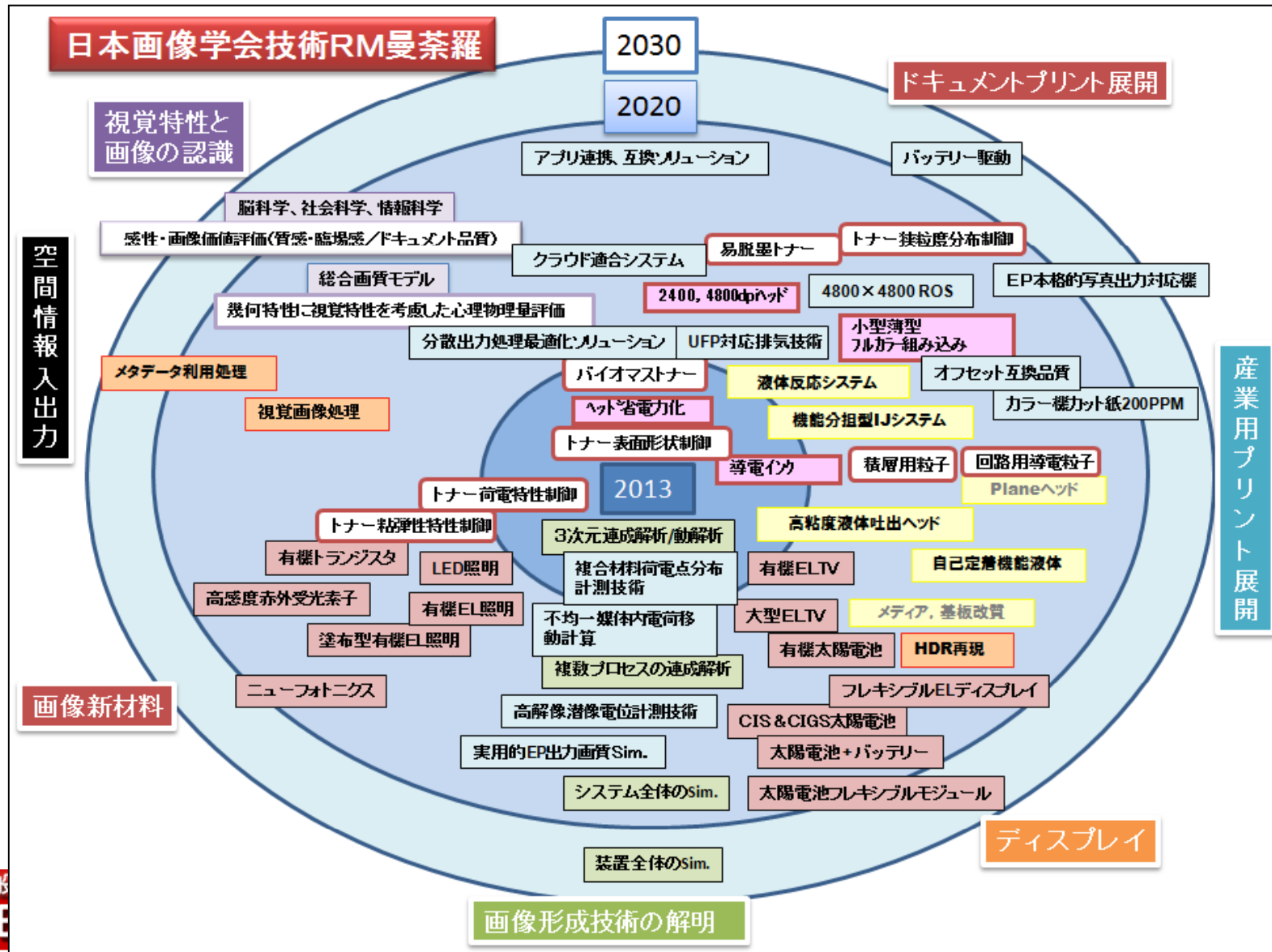
日本画像学会はこのビジョンに基づき、画像関連学会との連携で  
2015年に国際会議(ICAI2015を開催します)



連携予定学会: 日本写真学会, 日本印刷学会, 画像電子学会, 映像情報メディア学会, IS & T  
\* 特に上記太字の学会とは連携を今後強化する

# 技術領域強化 & プレゼンスの向上

日本画像学会では画像技術の次なる課題を提起することを目的に各技術部会を中心にアカデミック技術ロードマップを作成していく予定です。



# 組織力強化(価値の向上)

学会で重点要素を議論

重点品質要素(例)

論文投稿数

Impact Factor

産学連携事例数

国際会議参加者数

新規分野セッション数

学会の参加大学数

等々

各委員会で具体的なアクションに移す

編集委員会

技術委員会

コンファレンス委員会

事業委員会

企画委員会

# ビジョンに基づく新たな活動

## 組織力強化(価値の向上)

### 1. 学会の価値向上/パフォーマンス提示(委員会活動の活発化)

- ・学会誌の価値向上としてインパクトファクター(IF)の取得 (編集委員会)
- ・ICJを長期計画に基づいて運営(運営委員の常設化) (カンファレンス委員会)
- ・萌芽技術の取り込みを推進(研究会の合同開催) (技術委員会, 企画委員会)

### 2. サービスの向上・拡充(学会認知度の向上)

- ・学会を支える若手技術者の育成—講師の派遣など— (講習会を委員会へ)
- ・顕彰制度の充実
- ・技術相談窓口を学会に設ける (専門委員会設置)



# ビジョンに基づく新たな活動

## 組織力強化(価値の向上)

### 3. 標準化、政府への提言

- ・業界等での発言力を向上 (標準化委員会の設置)  
\* 広報委員会, 画像評価部会などで強化
- ・画像技術を科研費対象項目へ (専門委員会の設置)
- ・画像連合会の設置 (執行部会)

### 4. インフラの充実(学会経営基盤の強化)より強い運営体制の確立

- ・委員会組織の改編  
学会経営と技術運営を両輪とし副会長の設置  
執行部会設立し, スピード感のある運営
- ・運営の安定化(収支の安定化)  
各学会行事の開催目的を明確化し, メリハリのある活動へ
- ・人材教育の要として画像教育を視点とする活動を集約  
技術講習会、講師派遣、各種セミナー

### 3. 今後の日程

2013年

3月13日

評議員会でのビジョン紹介

4月中旬

4学会連合会 初会合

6月12日

学会新ビジョン55の発表

8月10日

学会ビジョン学会誌への掲載 & Web更改

8月27日

学会役員研修会にて、新運営方針に基づく  
活動委員会を設立

2013年

国際会議に向けての準備スタート

2015年

新ビジョンに基づくICAI2015開催



日本画像学会の今後の発展の為、  
このビジョンについて御理解をいただき  
今後とも一層の御協力・御助言をお願いいたします。

日本画像学会  
ビジョン委員会